

平成26年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	関西大学文学部	職名	非常勤講師	助成金額	300,000 円
氏名	鯖江 秀樹 印	メール アドレス	sabaehideki@gmail.com		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
過去はいかに展示されるか——ミラノ万博（2015）における歴史表象の問題					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>①ローマ万博跡地（エウル地区）の視察および資料調査 期間：2015年2月27日～3月5日 滞在地：ローマ 内容：ローマ万博(1942年開催予定)は中止になったものの、その跡地は現在、ローマ副都心「エウル」として整備されている。今回は「イタリア文明館」および「会議場兼レセプション・ホール」を中心に、当時建設された建築の様式的特徴を実地に調査した。ミラノ万博に合わせて関連する展覧会も複数開催されていたため、それらを実見するとともに、関連史料を入手した。</p> <p>②共同研究会「万国博覧会と人間の歴史」における問題提起 日時：2015年5月17日 場所：国際日本文化研究所（京都市） 内容：2015年3月のローマでの現地調査の成果を上記研究会において発表した。この段階ではミラノ万博を実見していなかったため、過去の表象というテーマを軸に、ローマ万博の概要、関連パヴィリオンの様式的特徴、展示空間を再構成する可能性といった複数の問題提起を行うかたちで報告を行った。それによって、過去に開催された他地域での万博との比較論的視点や貴重な示唆を得ることができた。</p> <p>③ミラノ万博視察 期間：2015年8月23日～9月2日 滞在地：ミラノ、ジェノヴァ、ローマ 内容：ミラノ万博のテーマは「地球に食料を、生命にエネルギーを」であり、各国パヴィリオンでは、それぞれの食文化とその展望が展示された。3日間におよぶ今回の視察では、イタリア館と日本館を中心に視察を進め、独自の食文化を誇る両国の展示形態を比較しながら、食の歴史や伝統がどのように観衆に向かって語られるのか、その方法を肌で感じ取ることができた。両者は、食の歴史や伝統を啓蒙するというよりはむしろ、最先端の映像技術と斬新な展示空間を介した体験型テーマパークのような手法を取っていた点で共通していた。また、ミラノ万博訪問に合わせて、ジェノヴァでは1992年に開催された「海洋博」の跡地にて現地調査を行い、ローマでは「エウル」を再訪することにより、関連資料や文献を入手する機会を得た。</p> <p>国の威信を賭けた万博のような巨大イベントが、各地の文化行事と連動することで、ミラノのみならずイタリア全土にその影響力を発信するという文化現象は、今後オリンピックを控える我が国の近い将来を予見させる事例に満ちていた。なお、今回の研究成果は、青土社HPでの公開（2016年春）を経て、共著として同出版社から刊行される予定である。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）					
発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）		
鯖江秀樹（関西大学文学部 非常勤講師）	「万博に見る芸術の政治性」研究会 からの問題提起	共同研究会「万国博覧会と人間の歴史」（代表：佐野真由子）	2015年5月17日 国際日本文化研究所		